
勇者の悪夢。

imaiwa

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

勇者の悪夢。

【Nコード】

N1224K

【作者名】

i m a i w a

【あらすじ】

勇者は絶望に打ちひしがれ、生きる屍と化していた。

俺は瓦礫の下の闇の中でただ呼吸だけを繰り返していた。

もうなにもやる気が起きない。

俺は魔王に負けた。

仲間もその際死んだ。

傷を追いながらも俺だけは逃げおおせた。

全てを見捨てて俺は生きながらえていた。

指一つ動かす気になれない。

もう俺はここで死ぬべきなんだ。

瓦礫の隙間から差す光はやけにまぶしく感じられた。

あそこに出て行っても……俺にはなにもできない。

そんな時、突然、女の悲鳴が聞こえた。

と、同時に俺はぎよっとした。

白んだ視界に口から血を吐き、地に倒れ息絶えた女の目が俺に向け

られていたからだ。

かっと思開かれたその瞳はなぜか、瓦礫に潜む俺を捕らえているように見えた。

俺は目を背けた。

大きな足音が遠ざかっていく。

あの女を殺した魔王の手下が離れていくのだ。

安堵を覚えながら、また恐る恐る目を開けた。

女の姿はもうそこにはなかった。

魔王の手下どもが、どこかへ持っていったのだろう。

俺は正直ほっとしていた。

あの女の瞳は死に絶えても何か俺に訴えてるようで怖かったんだ。

それから数ヵ月後、魔王は死んだ。

俺の目の前で胸を押さえながら倒れたかと思うと動かなくなった。

魔を統べる王も病には勝てなかったようだ。

俺を含む討伐メンバーの前で息絶えたのだ。

少し前、俺はもう一度魔王を倒す気力を吹き返し今いる奴等に混ぜてもらった。

病気を患う魔王相手に、他の3名の仲間は重症を追って地に伏せていた。

俺もやばかったが、すんでのところで魔王は病に倒れ息絶えた。

地に這い蹲る仲間が俺に目で勝利の喜びを伝えてくる。

これは僥倖だ。

棚から牡丹餅だ。

決して俺達の力で倒せたわけじゃない。

そして、こいつらは弱すぎて役にすら立っていない。

ほぼ、俺一人で魔王と戦っていたのだ。

このままじゃ……俺の手柄が奴等に分散される。

役立たずの魔法使い……

口ばかりの神官。

動きのとろい戦士。

お前等が何をしたっていうんだ。

俺の戦いの足を引張ってただけじゃないか。

こいつらだけじゃない。

前の戦いの時も俺以外はまともに3分も戦えていなかった。

だから奴等は死んだんだ。

もう少し奴等が強ければ、死なずに済んだし魔王も倒せたはずだ。

逃げる醜態を俺が晒すこともなかったはずだ。

だけど、今回は……こいつ等は運が良かった。

皆どうやら生きているようだ。

どうしようか？

役立たずは……葬りさるのみだ……

しかし、できなかった。

倒れてるあいつ等を殺すなんて造作もないはずなのに……

なんで、奴等を担いで馬車に乗せたんだろう。

俺に何がそうさせたのだろう。

無様に倒れる戦士の野卑た笑みを見て苛立っていたじゃないか。

軽口叩く神官に良くやった！ と得意に言われて殺意が湧いたはずだ。

でも俺は非情に徹しきれなかった。

だけど……華奢な魔法使いの女を抱き起こし立たせてやったら、

あの子は言っただ……

耳元で優しく、

『後ろの二人……始末したら……堂々凱旋して王様からがっぽりもらって二人で山分けしましょう』って……

俺は……心底震えちゃったんだ……

この女の怖さに……魔王なんか目じゃない……

俺の持ち得ない非情さを持つこの女に平伏したんだ。

彼女の言つとおり、あいつらは……馬車の中から崖に蹴り落とした。

俺は一度助けた命を死に追いやった。

逆らえなかったんだ。

でも、彼女は崖の下を眺めながら、無垢な微笑みを浮かべて俺を称えてくれた。

今は彼女と結婚して幸せな生活を送っている。

子供も二人いる。

彼女は俺を夫として認め、他人には決して見せない最高の笑顔を俺にだけ絶やさない。

この仮初の幸せはいつまで続くんだろう。

俺が年老いて力を失っても……その笑顔は俺に向けられるんだろうか。

分からない。

魔王を越える彼女の心の底は計り知れない。

だけど……しばらくは……大丈夫さ。

それに、いざとなったら……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1224k/>

勇者の悪夢。

2010年10月10日18時51分発行